



9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

JAPAN

門號卷
へ 13
3106
3

昭和九年
二月二三日
購入

綾手指昔木偶卷之三

江戸柳亭種彦作

饗庭文庫

六

やまゆんわまと

命がくく頼る。墓みと身とや何よ譬へ未だ露りも。雨消ぬるまゝ
で世と去りし。信太助が吏の慕く。梢乃猿友と失ひ水鳥の陸に迷ふ
やうひつゝ。薑へ一切人にと見えども活てねやうひんよう。死くうれき命と
おひきとくが。長の翁と妻一妓女れあまきうさん。死きるさん公に任せむ。
且へ信夫がとれ絆とかりく。夢よ似てる日をやす。訪ひする客へ喜びく
かれ。三負の操どちかく。客わらべ笑ひ客かけられ歎き。峯せ白雲立
花ひもく雪と一散菖蒲に涼しき夕風。もう真葛と翻して虫の声。わ弱
ゆふそ秋も未だうねとく。彼信太助が生害かくとく。葬祭も

万



更あり。石と刊銘と作るまで悉く董がふもて竹かねと暇かき翁へ捨まく。
それより入にあつてくづまじ一度も墓に立ちゆ。一日長に暇と乞信夫りう
とビ赤れ下刈花街ともちいでぬ。そもそも信太の助が亡骸と埋まつる當原を
岡とよひ假粧坂乃西にわたり。梅ヶ谷綴喜里の山手と名ばき。彼鳥邊す。
蓮臺野に奇しく文とやむ三昧をし。茶毗れ煙絶るときかく。井所に湯
しほ彼所に烘昨日せし。其へも今日又明日の人へ先づる。松丘れりとも唯
訪い宿よし。枯木。誰名と残と形見にやかく人苦茂石碑雨露に朽る
卒お彼路ろゆくてい連て。寶蓋幢幡乃断離セ一。枯骨よほすそぞら散
最幽間く。氣珠荒野す。さて信太の助が龍也不ぞういづる視るに野草雨玉同
く卒と供ト。浅芽が露風よ散く自來因伽と手向るの。秋かくく吊る人
もすととととと。夫生わいバかくくぞ死たり。形と残を者こうく少く。林火を

灰燼とかう斐とく葬敷とかると。唐兒書ひと見そとし。どづまじ壯年の
丈夫墳墓一基。う平とさしとるかは。墓みうり。最期のと見えし。是
處にかき入れや。しが。すぐと信夫と壠前前にづまし。せんがく父不幸
いと病よ寝。命衰運極ア。悲しげ。う病意と遂と自殺。とくとくひぬ。
つむき故縁とつと。妻と詳に知り。がくし。仔細と書いて籠ゆ。錦乃
儀とちくべ。せんがく。成長して。父は素懐とうとつぐべ。とくとく
臆念とく。忘るとかれと言論。己も壠乃前よ額突今きもいごと。
信夫よ成長か。何よまれ君が死心とく。しまつせんわづ。水く幽冥よ
安じ。南无仏。ことと唱へ。止乃声え。あんれと添觀念の助縁とく。うね
皆富度乃吉。隣翁の死よるを野外に送る。翁は毒ハ旬いき。とくと
とき。往生がつけぬ。親類さん只管小ハ嘆ぎ。まいてや。雪舟。金舟。秀舟を

人。棺と煙と香と果とども。己が公ぐれに別れ。吉三也先輩の方
にさざんと。岐侍ひに材とうちになう。段八とわ語りて向う人乃まえと
あくまど。董たけ橋にさかでけるが。操念珠に公とよしと。毛もみす
と。おもへき。橋乃まかはくとてと往合。互に方と避んとゆけし。鷺
面いと枝く公よまくせむ。徒倚足と踏ともかね。董へ吉三元袖も携。免を
ゆきしつと。やくもかだく。倚添く。其人と熟るに年。才程ハ信太
の助よ三西むかとあすひもれど。容顔ハトキ也似す。孰も招魂乃法を修
し現ハ凡ぬ陽炎。すま亡魂や招つゝ人と。怪しまうぐはんこして。乃
名と向まかくそひ。が生る便とかくく往うて。時董が被り。と。雅妓の
うち段ハと相識ゆめり。よう。忽ち富度。家君ありとぞ知。と。嗚呼
。ある因縁はや。せりくはば人と公放よんまわく。公恍惚とて。歩ゆかく。

とわう。堂に憇。火車とまなづくはと。有地よまく。頃は董。愁に沈。客と
ゆふと。憂とサマサマ。と。幸ありと。火車の満面よ笑と。やく。更
謂ゆ。やうひ。うりふべと。雅妓よ密詰。なれ。の。果と走り。程多く。吉三復
に追つき。段八ひやく。ころよまこと。けるが。段八ハ豫と。田子松と。と。吉三と
ゆひうかんと。計。挾居る時分。ハ。と。這奴が公と。湯を。い。屈強のと
と。る。吾体と。言と。もう。今宵は是非。と。博。と。用意と。かく。ゆまよ。蓋
と。雅妓と。かく。と。古三に。箇括。こと。わが。う。かと。言と。巧に。と。言を
。君小も豫と。董が負あく。せあく。べ。渠へ。今。時もまく。招ぐ。と。謾。に。
まく。から。雅妓。と。彼方。よ。ひ。う。の。看。は。春日。の。神乃化現。考
べ。天人の祿と。ゆきと。と。わづと。我們ハ絶。と。かる。幸福。かと。叫。外壁。ゆ
す。は。まこと。け。と。古三。う。し。笑ひ。と。小粉蝶。の。花と。寛。と。それ。紅と。先。は。ま

わふど露と啜人と欲てあり。娼妓の客とおひそかにオと賞をうるに
あひ財と集へて飲くやも。かくとありおひしよるる。もぐく娼妓
脇にほく色と虚情とくらうん。懼ふべからそくべと兩三歩ゆき
としが入心以爲渠も行まつてある花魁。一子とりまくえ恥辱
ともすが水性の婦人ときくつめの計束とくづく。うむと云ふ
す。全がこちるに渠が許と訪ひ。娼ともせむにやうび。道理と云ふ言
憲まがれと一兵からべと思案。段八のもとめそろ余の後者へ家来にて。
とある酒樓は登アとく。日乃吉と云ふと仰ね。段八は敢く多言と費さど。吉三す
か急ち変じ。生卒の窮屈のじく恐れする化街に今宵前後もふし。年底
かまうす。おばとくかて。菱屋が許へ遙り。おとと女童つゞけ
座鋪に請ぬ吉三は只管活計のみとてむかひを。花柳よりとばかりと

ソド彼は一個の才子かし。あぐく初くと見えど。和上坐よかど。傍と
顧る。銀燭の火影。厨子に妹妙づくの余りく。繡セリ柱。櫛柄を挽む
ひづりに掛つて。緋帳とく。金屏とく。四司の姫君かくとく。圓房す。
かくわくと。サヨとく。ふくし。とく。空言とく。とく。客と歎き。
との金はく絶妙。あふ懼。公あぐま入れ少時たりと止み。今ま形
わふもとサトス。酒をかく。咽にくぐらむ。かと眼とぞく。仔細に視
るにか。元藤は嘗て。もとく。座敷ふへ似氣。く。小女郎を。編笠と垢づ
紙衣と。床下間に飾ふ。よ香華と。と向う。あふ不審。じとをあくと
おわい。董の女童と。あくと。徐す。よ坐まう。親へかく。と疎かと。あ
かく。ひ盃と。くぐくと。よ。更訓。く。をえ。の。稍めく。酒をかく。うふ
段八は席と退出。小。董の吉三が。おぢく。と。初見。あいか。おまと。ゆく。と

面かくしりと。君と強く招まくるへば編笠を正に容貌せ似てすゝる故す。
姓魚水泡信太の助とり。原へ因縁ある武士かつて。今人世にひへ乃方
見とかむ。編笠に香と炷華と供じ。今日より御墓に詣で。時不意君
にあひまつて。草木へど甲斐分ま。黄泉れ客よ。露違ふ。ひそかに放ふと
後引く。君容止そろかく。いとゆかく。涙乃種とかうけらし。袖と顔にやし
あそづ。泣声。吉三へ案す。違ひそれ由縁へ知る。とど。薑が涙泣の光景と
視る。公子よ樂き。薑が少時わく。涙と拂ひ。益嘆に陳じ。首尾も
まことあけよ。憂と不果と。とどよ。一篇の唱名と。向ひと。信太を助
け。茶アリ。夜ねよ。宿志と遂ぞ自殺せ。と。一夕れ契アリ。一子なり。少
女童とかくやくまく。漏る所あくねが。が。かねく。ひきかく。坐り
べ。浮うひく。やせん。自他歎び。娼婦とある。あらわ。苦ま。と。知り

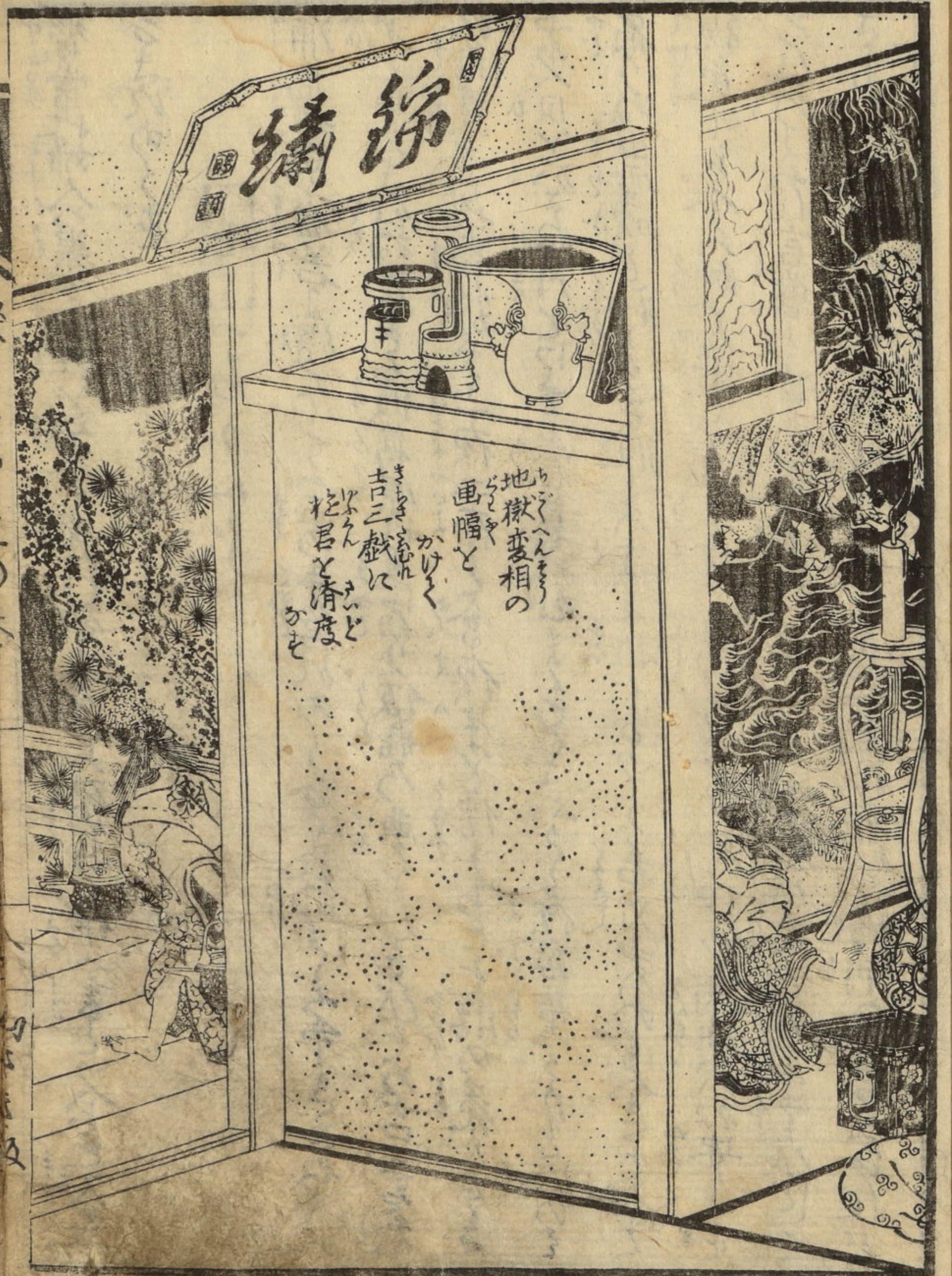
つと親兄おれ。おのと沈客と。ほとまよ。雲の濃。も薄にどうあて。半方
に。言わん。が。又彼方に。と空言あり。客よと。實がまのと。と。粉段の。信実
か。こづ。ひう。人を。恨か。落花公ある。と。まよ。流水あん。と。情か。う。人。喻。瀧
あ。あ。と。散ざる。あ。こ。と。ひが。と。其うち。信太の君へ。と。一夜の逢瀧
か。し。と。義。あ。と。信。ゆ。寢。あ。と。ば。入。う。と。盟。と。そ。心。ご。の。や。よ。じ。つ。る。に
その用。斐。と。く。と。友。卑。乃。教。と。き。ゆ。の。朝。寛。瀧。の。と。る。露。れ。方。と。歡。と。公。尼。と
サ。う。じ。花。佛。の。住。居。れ。陰。と。く。と。雲。深。う。と。花。衣。裝。婆。に。換。て。る。引。え。元
何。ぞ。入。乃。と。ひ。と。き。露。と。答。入。水。晶。の。珠。数。と。桂。乃。も。と。操。わ。と。吊。と。已
白。地。ふ。い。う。と。ぬ。自。身。と。不。便。と。わ。が。と。花。う。わ。と。雪。れ。ゆ。訪。音。信。て。あ。れ。と
更。に。恥。辱。う。と。形。勢。か。く。紙。衣。と。勝。と。抱。わ。と。と。む。か。り。と。泣。す。と。ひ。袖。渡。と
湛。う。吉。三。嚮。よ。う。と。又。默。然。と。と。居。て。し。ぶ。誠。あ。る。意。に。感。激。あ。と

ひれの總く煙草たゞもつてゐる人へ皆空洞する者とぞう。桂君は人を
の虚言とのそやうひどり。吾の聲井蛙少く。滄海と知らず。義男か
の信太の助か。まぐわん翁に致意。口一夜ほく想と果し。やうび
花傳と顧む。信と守と義とやうべ。自殺せしハ残す多く。ゆふに彼が路頭
にく。耻辱と捨く口説く。切らるひとぞ。口うづく。琴の調よ想ひと
かく。錦ふ文字と繡せし。その古事記へ遙に勝どし。而誠乃俊俏的とも
ひづ。嗚呼吾とやうで謙倉に位か。存令あらう相識らうること口惜き。
せん方ヒ又風流うと慕ひ。財ありに親む。信太の助が美少す感じ。終方乃
苦樂とと小せんと討へ尋常れ婦人乃サリべきところにあ。モ。サリヒ
まや荆棘の林乃ち。董ルる花あくと。と教訓。嘆息す。原未
徳行の吉ニ董。貞操と頗る賞と。心うし。忍地愛慕。想と。ま響。

まよとすく地女よ。んゆると迷ひ。初と。自地の扇うち。今ひづるど
信太の助の實に。一個の半男より。吾のと渠が意にやうぐん。一旦。顔乃似
つるやうぐ。拓きよせり。と。造り。の公物。と。香草まと疎せられん。
あく。あれど。やう方とも渠と。やうづぐ。公限さく。相談ゆく。城と。うそ
丹公乃から。き併が。我よ。夫波わ。妻わ。妻と。うどんの難と。う
じと。花傳。在と。その裡へ。憂苦とかく。うそと。やう方を。つう
やうじと。半ん。故あり。妻乃在所。と。安寧。うねど。白地。よ。守。ゆうう。と
叮咬よ。ひれ。董漸く愁眉と。ひ。と。信太の助と。つる夫めし。君
妻が。愿え。不幸。ひく。そと。卑く。辞へ。と。信太の助と。つる夫めし。君
に。終方と。ほさんへ。本意。うそと。妻へ。花傳と離れ。尼道。公と。妻と
脅。君へ。やく。室と。じく。花傳。共向。發松。操と。う。の。娘妹の其

うつよ。君の妻が情人あり。女よりぬとあくべ我度を言憲し。おとづれ
あつるふへりうわぐる盃。女夫に結ひまく。君正室と迎ゆ。期に臨と
妨げぬほど。公の盟よひと盃と吉ニよむ。かくねく扇子に飾り。手宮とひきまく。やうかる錦袋と取りぞて。とくに五呉天信太の助の遺
物。すく。子信夫成長をさぶ。その朝ひとき視るべと正々夢を告あり。
妻がおふくろをまつた。一品と君に預まつてござりく。妻が母を知
らせまど。古事記入首のかくろ守袋と薑がわく。御ひも吾大切
品。わば。やん男が夫のそれ取見と取替やくと互の公私。じとつ證すと。つ
えとと信実なり。其時薺へはとぞうく形見の紙衣よも向ひ。君薺
ゆびとゆきと。君より下りやく。只晉に主常と観。着形見をく
そひとう。念佛三昧。今日よりくへをせーが。かく居。忌々しこ者と疎れ。

訪ひとも客を絶んで多く金りを吾方よどてる。長つ公のつまう。金をと
武吉。室よどば。貞操と護る忠義と疎ひふ生とやうん。此道理と義節と。
花傳よ居べきところ程へつゞ。花やざく。客にやうれ定や。年也果て後
金簪と。投く。金珠と。換紅裙と。断く。法衣と。着女僧と。かく君後世と。
公サさかく。吊やうさんと。小浮うる公よ似そ。君が宿意と。遂んふち。却てほ
宣うべ。南无仏。かじがつく。歌。唱名。よこし。小かぎり。と。有きて。凡操し。
珠教と。摸的と。傍ひ。投捨た。うらむく。茶盃と。とやと。今も。漏泄の涙。と。
かきと。こすり。と。曲子と。歌。側乃。銚子ひまつ。セ。程。酒。喫。一食了
あ添く。吉事と。他よりかく。相譚。う。嗚呼。萬が爲体。善と。や贊。人爲。と。や
誹らん。勢い。い。侠氣。潤達。む。桂君。やうと。免まべ。若常。乃婦。人に。う。行跡
わべ。二度。と。端乃。罪人。う。桂君。渠。と。學。と。客。と。ごう。乃。計束。と



習常婦人渠が水性と笑えられ教とあまく破窓と補事とソドもス益
をまへゆゑど

七
しち
か
い

浦島わ子。海若よ浮てて。玉の手宮へあづかく。所へ年をとる。
老とさう。まひるやくも。彼高原北生宿り。仮囃乃夢をむまびそら。吉三と免
は角董。とれ忘がく。一夜二夜と。今。夜半と。僕もちと。情の表もさき
かく。因とがく。月とけ。意慕れぬありと。あく。都毎董。うりとひの
肩。りぬ。母雪吹も初うそれと。疾よ推く。あぐく。若方。おわらびまことと
視免し。今。却て仇と。あり。生産と。跡。いきりく。いと。用樂。おん安。うも
名ひ。およか。言徵。ど。吉三丈。い。義利。も。又。毀。八。圓。松。い。是。ど。よき。と
さも。ぐれ。そとのじ。くる。い。嗚呼。い。まき。因。果。い。や。かく。怜。物。う。吉。三。と

鉢湯忍地湯ひ。又隨意心といふかから。日頃乃行沐浴をかります。金を
壊してどう投げり。の遊と仕便め。アラカウスアカウル。因貰一毛
遊燕と用ひ。花街に名と残す。とうち要は。一日塔れけと通りけもが
ハル。地獄變相乃画幅と掛前。毛鑑と敷正。とうじく。布施と乞法師
あり吉三行。公よ点眼。法師にも教多。セ。地獄乃画幅と賣請を乃夜
花街のつる。酒漬。凜と。吉三段。と。相ま。假画幅と衣相ひ。を
こそ。我や。レ。彩色。浮と。游。と。不。下。ク。ソ。ヒ。キ。小。モ。薑
並。一。遊。君。奇。立。ツ。ク。リ。モ。ソ。シ。モ。中。守。史。ハ。簡。羅。王。ト。サ。イ。ト。法。坐。と。接。
罪人の罪れ難重と。いき。所。あ。有。無。書。成。成。
それ様。退。も。き。と。見。人。多。ニ。與。と。失。ひ。と。あ。く。ア。ル。ア。ル。モ。
吉三。果。セ。ム。と。ひ。よ。歡。び。今。宵。モ。地。獄。画。幅。と。お。奉。レ。し。も。貰。

持與乃為かと。菩提の要略成仏乃勝因と說あらせ。汝等と教化ぢと
もいへり。かゝりと扇とりと、画幅と指示し。そもそもは地獄と云ふ。贍部
湖乃下五百踰健那と過てあり。地下うるが故よ地獄と号す。長門含ひ。簡浮
提の南大金剛山内よ圓羅玉宮あり。其城七重。七重乃欄楯七重の羅網七重
乃行樹とも說き。梵語よ捺落迦又泥羽とづゆる苦具め。不可樂
と翻す。拔中央よ風氣龍帽。とづゆるをばくひとづゆる丹青。ム十王の矛五番
自也名ハ世よ最善高圓魔王。ハ在り。峯には火燄烘あり。谷中有水。沸
わざり。よきとこぼほしく畫す。火也。そ無量界の地獄なり。造惡の眾生とぞ。總
て善果少きもの。所仄墮在。或ハ炎熱の猛火よ。或ハ紅蓮れ渾底に沈む。
長夜の水火乃責と云ふ。他吉凶とかせり。日暮則没等。久月乃えり。小
ど行つて。歓迎受がまし。人間よ生と愛かが。窮世行業つてあくて。要ふ

重音竹れ流よ沈朝は容鋤と更々と。豪鏡の磨とを真姫月よりとく
暗。冬の蟬翼と極く衣裳に薰としどと。一香一華と仏は捧と。もの哀と知
らざし文ある声に妻つゝと秋野の虫と罷は苦くも厭ぬ別乃東雲の聲ふ
き鶴と恨むと。うとがとさぬ殺生戒又他女れ客と称とり。多びく會。倫
盜邪媛勢とつひく思ひざる人乃公と蕩と。妄語戒にわしきりんや。
飲酒へ元末杯とあげぬ夕とあまのと。五戒と受と三宝と信せと。自作
地獄よ墮す。水劫悪趣よ苦しまん。まかきゞよ女ハ五障ニ覆とく。罪と源
りのとみきり猛惡と嗜者。隨君の越とるかく。かと餘罪を量う。爰と
く古三才位を悲本願の心と起く。ひ女肆ひく地獄壁ひと名づけ。號樂と
催さん先間羅王。蕉衣婆阿防羅刹俱生神無教ノ鬼神と初とく。或も
言量れ地獄よ墮。呵責と受る罪人よつておまじ。悉く叢とく其役をと

さざる現世よ地獄乃体相とす。作已罪と果てせば。無量劫業障有り難。極樂往生す。ひも。はとつゆあるべきとしひまへ。並居する僧徒放妓。久き。呆小しよ呆て。善とも悪とも言ふ。者もあ。時に封間とす。ともと。大塗乃医師側に侍アリ。少く文学もありと見え。進ソドヤケル。我氣臆かけとバ。書冒ハ忘ル。馬祖曰。真如に変易あり。三毒と廻。三娶れ淨戒也とか。六賊と廻。六神通とか。煩惱と廻。菩薩とか。無明と廻。て大智と作。それと善智識と。真如に変易すま。外道きりとつり。願を吉。和尚れ大位と。りつと。地獄遊びと廻。極樂遊びとす。金銀珊瑚碑礎。うんじいと。座敷と。莊嚴。碼礎乃離珊瑚乃椅子。青。黄。赤。白。紫。色。化床。い。真珠乃枕と並く。青。簾と。りと。麻尾。真珠乃綿と。張。四辨八音乃鈴と暗号に琴。空鑼と清挽也。客よ送る歎書と。細紙金字にてせば。

竹軒、風車をほのうと。孤舟、龍頭、鷁首、麥。諸天、妙、華と雨。供養
かまびからやス吾儕もよ。歡喜踊躍れるもひとかまん。先今宵假華をじえり降せ
えすくせそゆく。
多と貪慾而顯ひ。づもど庵とぞざわらとつと。これぞ地獄乃罪人云
知れ。それも慈悲ひ。吉三君れ宣ひ。實君やど罪いと源義
あじ。され血盆不産安地獄かんごに当らば。自業自得とつへけまど。鬼神集
衣波等九鬼とひうべと似氣うつるべ。吾儕等洪稟。身肉のれどづく
人。と噴懲ととかきどつむ。吉三黙頭。さかつひそ鬼。月と日とと。音
年。汝の夜と日とて。苦海十年。因みまことにあしごと。美ひと催し其夜。止ぬ
。さる程。吉三。地獄棊びとひしと。妙ひとも。菱角が長。よかとまく
け。わきうとや。狂。またびと。長。よ善と。甘い。頃より教安乃他
つき。吉三。催し。強く。毛と。ごく。本日。に。きり。を

蒲臺に座。酒は狂魔の異名也。不とよく香々く狂は面とあそびかへん。
扱等活とつて大獄也。磨ひと人を搗碎。又活々と唱れば活と嚮れど。ば獄
當りの。生体がまゝ。酒と喫沈醉にせよぶとま。醉と解毒。とりもじ。醒
のちまゝのま。ああ後又喫やん酒と強もとよみむれよ盛殺ととくをうり。さく畜生道も角と
戴鮮とをうえ。又羽毛あるものとつゝ強の弱と伏す。血と飲肉と咬ぶが故に解脱
狂ひの血道とつゝ。山巒よ当るのみ起居に總く四足。よまが。物と喰ふ者と
りらひど。器に口と近づくべ。打戯ハ虎拳。狐釣。鼬子。雀乃子。うり。言
虎とつよき。冒隱かどとよりくべ。とし皆羽あるもの。もあらぬひは因あら
が。若君は竈に取当り。鉢下鉢乃名ありと。身と色と。がくもひ。空きす
四邊とく廊と通ふべ。がくもひ。耻ともやひ。とし核骨。鉢。空行
免とく。警戒羽織と矣。うらとく。空あれどもかうへま。さく餓鬼道へ墮

度に大なる金と陶。これにて酒の用とあらず。廣くかる魚板と野猪。麻
の類と載新に砥とづぐる庖丁と添す。凡金へ罪人と如殺日罪に比。猪廉
罪人を斬鋸に碎言す。うと吉ニ至る。指南とく。樓と鉄城とよばせ廊と
二河自道とつひ。盆池と跋提河とつひ。假山と劍乃峯とさる。うんと徳と
それ日の法律す。その時吉ニ小四方に匿と裁。とも教やく捧つて。衆人商ひ。
近曾もひひる。とく。ば罷に地獄。寔人シモトドカ。三途よ迷入罪人よへる
まく悉く書我す。もづ。閻羅王に当る。今宵乃主。魔王に次
べ。さく。八寒地獄。よ當る。の。今宵乃主。魔王に次
セ。酒菜。水。貞。うんどう。と。焦熱に墮り。幾室の衣と着。脊は。痛。寒。嘆
い。前は。火桶とひろき。酒。火とより。抜筒。とく。お。看。女童は。鬼。的。む。桂。火
火と。或。續。火。火。因ゆると。火。免。火。火。又。血盆に沈。女。紅の肌。者と。火。乃

漢の隱語
李昌五多同
和の隱語
西鶴翁難
渡虹
本と
す

者。美酒珍膳と前より後。後口と守の。一口を喰ふ。かくし餓。餓であると餓鬼道と。ばかり。まことに阿修羅道へ。酒と翻り。危と殊べ。大海よ醜く。その味酒と斐せざるを噴。妬。阿修羅へ。修羅う。修羅へ酒う。故に安酒と。むほ。寧よ當る者。酒と喫と。戒しへ。常に鬪戦と好く。他に勝と。欲と。奉れ。釦のがくひもあし。拳の元來。將基。又六成へ投壺。射矢と。と。せ。摠と。勝負と。争ふとも。どうと。べ。就中。固基。月日乃。毎。鬪戦する。黒白石百六十。過げ。日數と。争ふ。仏教に。最も。打斷爭道。鬼口。弓。と。鬪戦。因。も。く。入。漢花街。又。隱語と。ふと。あり。銀子。否。樹と。ひ。銅錢と。匂兒。と。乃。類う。今。花街。と。流行。次く。て。も。徧草と。ひ。偽。と。入。乃。も。ひ。金。や。肺。と。ひ。言。と。二。と。由。か。我。ビ。モ。レ。敷と。隠語と。作。里。龜。六。引。ごまの。帶。う。鉄猫と。三泉う。熱鉄と。酒う。

努。忘。べ。く。どと。說。終。り。そ。そ。憲。と。分。取。よ。吉。三。へ。餓。鬼。道。と。当。う。薑。と。修。羅道。に。当。り。其。餘。ひ。や。く。へ。趙。鋸。不。產。女。地。獄。血。盆。と。落。て。る。へ。鬼。と。も。欺。く。男子。に。て。阿。防。羅。刹。異。類。の。鬼。神。と。か。く。も。ハ。悉。歌。妓。倡。婦。う。其。中。に。夜。と。づ。る。老。女。脱。衣。婆。と。当。り。の。こ。と。わ。く。う。と。笑。ひ。と。催。き。か。一。も。ゆ。ど。今。宵。の。花。幸。と。る。吉。三。が。餓。鬼。道。に。墮。在。セ。ト。へ。少。と。血。と。も。る。公。ね。と。く。盆。の。流。と。淀。く。わ。く。女。童。一。人。慌。と。一。げ。と。走。不。り。誰。や。う。人。著。の。君。と。會。ゆ。ふ。人。と。く。今。や。う。と。ま。と。う。と。告。け。し。バ。吉。三。益。與。と。失。ひ。秋。花。筵。と。ち。憚。ら。う。ど。推。て。來。る。愚。者。後。實。乃。炎。羅。王。よ。と。わ。し。か。ど。速。に。逃。退。け。ぐ。や。或。直。に。風。景。の。殺。と。捕。酒。と。り。て。鞠。回。せ。ん。と。寛。々。と。て。廊。下。ま。と。く。ら。つ。ぞ。しが。俄。よ。流。忙。き。つ。衣。袴。の。陰。よ。方。と。潛。え。て。語。と。も。と。こ。ど。正。掌。す。在。い。か。う。吉。三。が。光。景。と。見。て。且。恐。れ。且。怪。と。と。御。よ。席。と。退。き。程。か。く。禿。よ。

案内をつづく。妻の四十のアヘ四ツ。五ツ。三割帶。花垂下。小袖の色。
夫はあけれど、妻は櫻乃。昔よしと面接よ。臆毛の色かく歩をまう。衣袴よ
信と眼をつけ。づきぬ風情よ。和も座よ。老葱やみとへ且の方よ。乃がく
つよハ吉ニ。母雪吹とりする者に。ゆ。とゆそ。葱ひらき。衣紋そく
うひ裾そく。容と正そ。とゆそく。サリヒヒキと。うれば。わゆくよ
ひきらじ恥。うそく。体凡せまつ。最面うそく。微笑つ。女童よ。茶と
罕す。がくふと。こまゝれ。賢えり。ううと。雪吹。うそく。うらえ。やう。歴史へ
ともぐうて。今日まで。訪むせど。ざつ。且タ。やん。おの名ハ。とく。塗て。修
り。その昔より相識。ト。サリ。バとよかく。いわ。ひとに。かとと。老乃
ゆ。ひの諱言と。うち。腹ひらて。ゆふる。談と。とよ。さよ。ゆ。こう。うり。を
隔み。言葉よ。葱。うらと。恥。う。もぐく。答。と。とく。も。雪吹。かまく

董よ筋ひかねぐ風貌すらあらぬ。角樂どものひとりとぞくわがことき性生
ひ。今自うへて防へらばると。白地よみきとくす。やびとのとましは。土産ち公
をうりもと。巻絹髪簪。菓子盒と。董が前より持て。錦の上より花と。そゆ
と。常言ひへふやれど。こゝから花よへやうじゆき。雪よりづづる。冰海昔漏毒
と解と。茶い。夜毎に酒あり。うへと。勢ひひついて。老婆をえ、巻絹、排編纏。
やうじゆね。やうじゆ。古渡の唐絹にて。今ふその手へ稀。おは割て。膚糸に。む
め。と信。ぢちくきく。する。董。薄く顔と擡。づそろ苦勞ひうをとまつせ。也。
罪いと。すうそは董と。づそろひのと。もやうさをよがづくの贈。も請。まつる
苦。と。罵らるに。百倍。と。悪。に報。る。詫。も。也。と。諷。も。アリ。と。まつる。景。と。
精。と。か。う。笑。ひ。よ。ま。ざ。し。流水。止。く。止水。流。く。か。ヒ。男女の。脇。た。甚
よ。外。同。ま。る。へ。ま。そ。や。ま。そ。自己。が。公。乃。ま。う。し。ね。も。愚。も。人。乃。常。に。く



先づべきは五君子乃吉三。公づまうか。からひあふ。情が却く仇とみや。頃日へ信ぞる長谷の観音。年に一夜の通夜のやう。夜歩行ぬ月入冑。七夕妻さうとまう。菖蒲とつる處女ゆうと。わのつまにちよとようと。兄クルミモヘよびひく。婚姻せよときくめよ。小とそん兼る。剝五骨の手。妾ハ園子ね遠く。すすめで乃園子のしら。僕が日度とひそん。菖蒲と兄も追ひて。そりより後の柳巷通り。や其方と豫て下り。契アキサカルとありてお噫。それも女乃まソリ。えきう。唯悲しきハ古口三。が行跡観の公ハ東のるも。サシナセアリ。と。娘は姫也。と偶と。數多す。う。タマリ。ゆき。がくづむと。先方と假縁めくと。頑に。つよひ。さく。うぐら。吉三。す。心。禍神乃。ア。脅。と。サシヒトリ。諦く。と。尚ゆき。う。か。ま。胸苦。と。其方へ逢。不く。ゆせと。兔を角す。又陰をべた。人

うと語る。も。昔恥。うき。懲悔。よ罪。も。済。や。そ。罪。や。車。人。哀。別。離。苦。五君子
と。摘く。他乃。方。の。痛。と。や。れ。ば。ひ。い。で。ま。妾。も。原。ハ。皇。都。の。産。伊。里。江。
つる歌妓。に。く。名。と。も。面。と。人。よ。知。ら。れ。端。き。と。誓。と。サ。り。す。五條。か。う。
に。住。居。と。立。り。て。祝。人。く。ね。顔。う。ね。化。粧。小。う。ね。ど。夏。豪。ふ。く。
苦。行。う。も。う。と。走。ひ。ま。系。行。よ。坐。と。下。り。人。と。心。
そ。ち。仮。攝。乃。夢。と。む。と。じ。つ。一。夜。二。夜。乃。お。う。と。う。阿。漕。蒲。に。引。網。
の。何。人。つ。と。あ。く。天。と。免。一。巻。よ。漏。て。つ。ひ。あ。り。よ。と。ゆ。ど。ひ。か。し。様。が。く。
よ。よ。ま。意。地。と。若。乳。の。恨。ア。刺。そ。の。人。ハ。京。家。の。武。士。よ。何。某。と。く。由。わ。る。
方。乃。愛。子。う。れ。ば。浮。小。わ。く。と。幾。许。度。言。大。懲。と。老。臣。ハ。も。し。ど。却。く。も。と。
不。與。よ。サ。シ。怨。乃。行。と。序。一。罪。乃。勿。地。サ。人。方。よ。報。久。ト。く。ね。漂。名。が。大。内。
よ。ま。こ。と。く。塗。よ。腹。内。へ。よ。渡。く。の。首。と。落。魄。あ。元。ア。と。く。と。姿。が。罪。人。疾。

よし縁くちあへば。かの重友目へ月す。と其時初く公づ。悔どえよ
甲斐あう。せうくへ臺す。貢が女れぬと勢へど遂下る
年乃。老く散う。訪人う。金とゆとんを候も。つづく若くてあくべき
と歌妓はせひ絶彼入りうと旅立く。ば錦倉に足とどめ。僕乃本錢とある
にく。商へとさまと智。昔へ參とかいきくも。其子に今日六十あ盤。遊近
ぐ。鬱柳とくど姿容とくろふぞ。浮とる公と獨り。商賣れ。励しよ。
沉石祭華れ都舍う。利とる花主也。增富へわく。奴ど坐と
中とくらす。やうじへきりゆき。満べ闊坐て。俗わき年乃。夫のじ風
こちと打臥く。改へる病氣よ。孩く。小因療に疎へ。みなし。常業にて
ややけん済に。やうる病の。今般と見ゆ。枕方よ。妾と招く。宣ふ。かく
も病苦れ。尾くと。存余べども。サリ。我たゆ。年あき。やく。一入

よし家と。立べきとの覺来る。改嫁と即ひく。節矣と。モウハ理う。却て
高寡住。より。名と立ら。く。人も謾る。のう。せ。後夫と。びひ。富
度屋の繁榮と。謀々。草葉繁の蔭。凡て。く。と。仔細よ。し。諭。其。曉
よ。徳。小。ゆ。そろ。時の悲。く。と。問。ど。も。ち。へ。と。せ。ひ。も。と。声
う。よ。ほ。の。そ。る。と。か。く。ら。し。が。良。人。乃。語。れ。サ。キ。ト。し。ば。公。と。鬼。に。と。う。く。と。安
ほ。く。も。家。業。と。副。三。面。忌。と。吊。ひ。つ。近隣の人。乃。も。く。わ。よ。ま。う。セ。ト。い
は。る。後。夫。へ。則。今。の。用。樂。ど。よ。キ。ど。そ。の。比。へ。名。と。手。次。左。高。つ。と。ゆ。あ。ひ。吉。三
と。誇。く。富。度。屋。の。贅。婚。そ。く。ど。あ。丈。よ。遠。ひ。妻。よ
二。十。八。年。老。ひ。似。乳。う。き。夫。婦。と。つ。す。む。れ。ど。折。角。仕。似。せ。し。富。度。屋。乃
店。と。絶。こ。ト。と。つ。後。夫。へ。く。色。と。食。る。公。へ。る。老。実。う。り。よ。と。あ。い。ひ
殊。に。脊。腹。つ。ら。ち。セ。ど。子。も。と。ま。う。け。欲。び。侍。女。よ。乳。母。よ。と。俄。ね。だ。と

ヨリ。やまく。少へ心安堵。吉三が切きそらせ。ひとくら
いく。三月にわが子れ病勞し。捨る某とむじへ。嘆歎父とよもぐ。よ謙
寛くまきさやう。子病の児へ成長。愚きものと一きけ。又夫そん
案ふら。背ふれ似も健よ。やひきのま利度へ。生産に耽誤でも。
きこへ書と読。文字を知ア。近きれ人乃讃。アリ。不
恵られ色の淫浮れ。アリ。まく内ハ良。モジ。已と讃。その人と眼かぢひ
とえ人よ。笑きのと意。アリ。モトアリ。程其方乃猶。あくまく
諄言。鬼々と。ひ母と厭。アリ。知ア。アリ。嚮よりもまくこと。
吉三と妻。夫の娘。昔堅忍。乃爾。行跡づくじと
をしと遂に。度覧。妻が前より。かのひ。面つき形勢よ。よく。のび。ひ
とす。苦しき。幾々巨萬の宝。アリ。アリ。よ先と。借公へ。あくまく

謀々太閤樂あり。ひれ東と推量。今宵來まく。おれ恥と語る。道理と
知ら度へ。長年。半年乃至。うちへ妾を隠居と揃。夫婦りんと別
莊に住ひ。後富度屋の店と。假粧坂よトと。吉三が心付せられ。夫
まづ吉三と賄。口。え乃どく。産業と。励ゆ。にきわめ。妾も昔。覺
ゆ。異見と。きけ。腹。理と。非。わ。ぬりのへ。わしと。流水と
止む。へ。差はと。ふ。柵。恩と。情。い。ら。び。止。め。も。流。ゆ。あ。か
父。や。秋。年老ぬ。ル。ベ。行。も。多く。す。ま。そ。他。
と。や。や。や。さ。わ。と。つ。ひ。つ。衣。形。と。顧。し。ど。何。地。や。き。り。隠。居。吉。三。が。妻。
え。き。う。ね。薺。そ。の。内。膝。と。き。く。め。す。も。ぐ。に。理。究。と。返。ヤ。ま。ん。と。ぞ。ち
ゆ。じ。初。う。吉。三。の。君。妻。と。よ。じ。夫。と。再。願。に。わ。と。正。室。と。娶。房。の。
に。臨。妨。げ。ぬ。す。と。つ。契。約。乃。盃。酌。か。と。豪。と。か。ら。人。友。と。も。と。盟。の。龍

ハニシと凡てくわしくあはねりと。上着を袖と脱ぐ。下に車を破紙衣
縁故こそあらむと凡ちうる。謾ばへとぞもつて。まことに。涙流れかまうれ。
吾がよせり。おせんと白地の宣へ。妾もつまん。すみふかく。原本親よを
兄およも幼きに化り。孤乃ト。ぐく。妓女とまでうりごろ。箇幅
乃美に追ひ。水泡信太の助と。武士乃浪人。かく。けんとこそ。漫人と
よし。准に一夜の契りとこめ。不そ。并にまづけ。男子ゆ。柳巷に居方
の悲しき。女童に姿と粧。母と。と。子と。つむぎ。名とも。信夫と。と。す
い。しりと。や。憂の忘葉。や。しごる。と。れんと。子と。住り。と。サリ。か。明
け。くる。甲斐。も。夫の病床。よ。臥。自害して。女と。去め。公と。ま。看病く
さ。夫乃別の悲しきと。宣へ。公と。比く。片時も側に附添を。刺非業の死
も。うき。姿と。か。一時。妾が。想ひと。情。ゆ。ば。紙衣。こそ。夫の則。形

凡て。侍じか。て。サリ。へ。日と。寝て。後再び長。免と。ゆく。夫の墓に。詣で
わか。不意。あひま。も。吉三君の。面容。良く。よ。背。する。に。身。き。ま。して
詣。ひ。く。へ。眼。見。れ。ま。に。サ。く。ど。た。と。や。一。年。に。き。り。や。せ。ん。蝴蝶。冠と。幕。ね
ど。た。よ。香。と。散。つ。蝴蝶。と。招。く。淫。婦。さ。憎。とも。や。だ。き。う。ん。が。花。傳。に。あ。る
そ。乃。不。ど。へ。男。の。ひ。と。う。も。活。計。う。い。陰。を。ぐ。く。よ。つ。信。き。母。の
死。語。と。ゆ。く。し。向。来。へ。吉。三。君。と。ふ。つ。ま。ひ。後。べき。あ。い。き。つ。る。罪。幾。重
に。あ。凡。免。く。あ。れ。と。備。よ。ほ。し。信。夫。だ。ま。と。く。押。れ。ば。由。縁。へ。知。れ。を
泣。母。の。顔。と。凡。つ。て。雪。吹。と。對。し。免。さ。を。あ。く。と。つ。も。可。む。雪。吹。不。と。く
感。激。え。かる。理。ある。と。妾。へ。努。め。に。あ。ざ。に。ば。や。お。が。色。に。賺。ま。れ。と。吉
三。空。洞。と。一條。よ。せ。ひ。い。と。れ。此。ま。や。水。泡。と。ゆ。ん。が。美。心。と。嗣。其。方。の。憂
苦。と。く。へ。放。蕩。よ。似。づ。れ。ど。も。少。し。丈。夫。の。兎。わ。う。と。慢。ら。と。教。育。已。が。と。つ

ひよ帰り。小かくやん方が実わる。公操と云くに。安堵せやし。宿も
どうね。准びても吾子れと。あひ且方ぞうきし。吉三が夜毎に訪れる。三夜
一夜ハ戻り。妓女が道理に感じ。客に横陳さるが。漁翁が殺生を厭ひて網敷
放といん。鳴呼夜ちづく。春ゆく。空もく。寛ぎ来り。まぢ知り。たのむ
氣色。足をみれと。とど残。とまく。袖よ携。誓ば。秋子ぞその。他の
女を勾引して。五男れ。非と。びひとせど。他乃女と。蛇蝎の。どく。懲り。うぶされ
祝公。そしよひまく。かくどう。雑ウ。ごと。と。と。と。と。と。と。
うるる。ほひまく。五音符が合せられ。う。と。誓と。切松潔き公の不どと。少く。爲り。せ
やさん。残す。そ。恥ふ。と。くむ。實に。サシ。入江の洲。羽。ぐり。袖。は。涙
の渦。う。被。人。あ。下。げ。う。雪吹。む。ど。ろ。い。と。落。る。涙。と。袖。よ。搔。く。ふ
ひすに。愛り。ま。女子。わ。と。も。知。が。し。バ。土産。え。も。用意。せ。ど。摺。宿。乃。帶。同

衣冠。弁。や。ト。う。へ。う。何。ま。し。欲。わ。伯母。が。訴。ひ。ひこ。と。み。と。初。き。羽。耶。ひ
く。面。と。小袖。と。ま。こ。ぐ。愛。教。づ。き。く。答。が。ま。く。ど。お。う。向。ひ。の。樓。に。枝。弓
の。青。色。ま。く。う。我。才。一。乃。秋。う。じ。心。よ。む。け。へ。わ。う。と。や。賤。が。伏。面。よ。打。ぞ
仰。砕。れ。声。を。因。が。仰。く。血。あ。と。と。い。き。こ。り。と。要。と。候。う。公。に。へ。却。く。涙。乃
程。と。う。ぐ。が。く。と。薰。へ。雪。吹。が。ゆ。と。送。う。て。女。肆。の。門。首。ま。で。立。す。う。が。而。雲。落
ち。う。だ。う。行。燈。の。火。歌。幽。う。く。公。が。と。み。餘。贈。う。と。ぞ。御。く。つ
吉。三。へ。今。有。も。う。と。き。耗。び。と。花。の。者。乃。目。と。寳。入。と。勢。ひ。豫。と。う。乃
用。意。と。母。雪。吹。が。本。り。と。り。く。づ。が。に。き。ゆ。の。と。ふ。涙。あ。る。母。れ。辞。と
く。ま。く。其。席。に。も。な。で。ア。孤。亭。よ。逃。去。口。曾。大。盃。と。傾。け。り。酒。の。や。ち
う。と。う。け。と。う。セ。と。あ。り。く。醉。を。せ。ど。少。時。思。案。一。わ。け。る。公。信。度
う。サ。ら。か。安。兩。と。う。居。づ。く。不。孝。の。罪。や。く。ね。ん。せ。り。て。今。信。母。

先づうて房へきり帰本寺と其時に近づむ者らのあらん。これに城の計を
ゆじとあへてぐく竹輿と愈母れ語と半歩も。先女肆と立出ける。爰ふ
又菖蒲へ去生れ五月の下旬不意失の罪にやも。佐吾七諸せ富度屋
と追放されしより別々分就條みければ。諸越原うりけの田舎へ兄や弟
をも。今日とくにれの日とすら夢の宮へ数箇月とやす。今こそ一年
の餘年あるに近音より吉三が煙たよ通へるよと夙にゆ。つま
く環金諫とも。恨もへぬ。とせりひこと。夕に家とゑびせ假粧板
とけり。ひ日か疾よ暮果一ぶ。せりよ場とる熱鬧とく。青樓を軒端よ掛
連し。燈籠の火燄へ恰自日れどく。菖蒲へかる光景とうづり頬に公膾
とく。東西と立み。並くゆやく裏居れ門とやそよぐ。うそと。後でそ
ひ。日東西と立み。並くゆやく裏居れ門とやそよぐ。うそと。後でそ
人へ見えねり。と白地にに向ひ。ほつ房へ視おぐる櫻調うる葉乃曲

え。サヒ小増想夫憲昔と暮涙乃兩よぬれて。久すとふ吹乃先手ノねど
離に添不熟にわづひを言ふ人ちうまをまへ。と恥辱とくをぬる涙乃
うべ帰ゆへ。それにこそうりうま。公乃裡ときこ人と念づても居れ
が風吹われて雲暗く。夜も森々と更け。暖簾にとり昇つて。も等
籠に結び。毛焼へ。毛とある富度庵の紋。りやも人うはじうへ。とゆり
う先胸え東へ。がる籠乃後方よ後く出口ともうちこらし。往本迹
べ少時ゆ。ひとてきこのひとときつゝ。輿。昇菖蒲姿と熟と打見や
夜ひよ女れ只一人。供と俱てぬと不審。と流石花術にもまだらへど
もやくと假か公と積く。兩人へ黙頭あひ頬く。等籠と傍に下く。せきつよ
あこし。吉三乃君うい寛よ語りゆへといひつと。小暗松乃下がれ。輿昇

退きたり。菖蒲のる龍乃簾押ゆげ。吾冥ううと動覺せど。時吉三十六
食乃醉と夢。公ねよげよ眠居く。菖蒲ううとあかりもかけ。かく
目覚つがる龍ううづる足元の室ううねべ。あく浮雲や。と田る菖蒲が
肩よりく。益公づひうれ我えよ醉しにゆく。今乃ど徙倚と東
前龜へ當す。餓鬼道乃李へこそ抑餓鬼道とまこと。徳の者山林塚
廟の神よまつれ。徳うきのへ不淨處よ居苦と憂と無量ラ。餓鬼隔
と食とあふざ。身体總てカニ。と肩とあげく歌つ。又醉行く倒立。
昔よ變形勢と。かうく先胸ふごう。終く程ある菖蒲が顔と。す
を忘れぬひしやがにヤジうき罪とゆく。追ひまされ。モ附へ死ラと爲ひ
室一がこわぶつよく。殺かす。公の計校顯れく。陰方うそア自害よと浮
する名とば死後よと。れんも恩護。死ぬよ化ラルぬがへいよせん一人

音とう。谷潛乃涙の兩よも哉く。底の水草れ菖蒲苦。びく人もう朽果
へもう宿世の穀ぞとサヘ恨へのづれど。忘れやし侍後川落浮花とくろ
とも。流君れ扇と慕四箇乃蝴蝶と秦也。取あげるが縁とすり。今も
蝴蝶の夢乃す。秋の扇と捨られつ。忌くもきのよモヤくされかるとぞ。而
う。と涙と顔にうきし。破乱離とぞもお塚まひし。柳も勝に落へよ
別乃祥やと。アよ歎く。吉三ハ今宵たけよと。母の異見よ與と失ひ。今入
菖蒲よこれよ。と憂くサヒケル。賄くは場とがさ。と呵くとら笑ひ
ユ。とぞ才にサヘキバ。と其刻に分説でぞ。や人為よ別く十余箇月。入
改嫁と。子と生む。うとひとてがる龍よ。まんと。菖蒲の尚も泣み。が
宣ふよ。とぞ。サリハジをうきとのこか。頃に。言訛めほも。その眼。

追出され。さと血を合へて兄才と知りしもふぬ情きやと。兄と恨。田家在
玉。答ふるのみにく力う。恩妻美ほの四法より才へ縮れ。琵琶小路。晝
人目あげして。流石よ面ふせうるべ。夜ゆく傍皇我家の門前へ自よ冊
し。侍女奚婢へ言ふよかけど。畜生れ公よす。主に疎小退放よし。才と
悪とせひしてや。多角れ大の咲ひよそく。其勢よしれよと伶傳あつき。
名ひと空す。庚酉と改嫁とせて。既とふそへ餘正に情み。かまで乳
強きりあふ。花街より住妓女乃。風俗にやそよすとふ人と妬とつぶ。
丈にゆき。君が意につけり。阿曾比とひくすとま。妾を婢のやうら。猥実
乃情へしけどと。側よやすくすりうるべ。それによること願ひゆじ。やすぬ
と泣叫ひ。さつき歎をひき。千種を道連れ。感じん涙とごやも萩の露。尾花
を鳴ようさきと。吉三へづせき面ねく一言の答もううくと。和ノ聲籠よ

おうへとまわー。何方よ隱居うけん。佐吾七はと走つて。お
中には立。妹が形勢公ぬどと。元へがはよ暮來す。仔細ほよゆい。萬庫ち
今つじく。餘ア興懸のやんするまし。うち。我々が実れ兄才にわざと
如何不才とよづくべき。ぞの生平乃行跡少くとも知りを。先きこと
ぞ。我富度庵よ在。昔君の且く漫行む志あらど。ましく柳巷を。何
かとぞ知りてよまぬ程。されば若人よ似氣すと。誹人あわん。と。箇人
人を君乃許通ひ。家いは宿。のうねよ。夙は僕へゆる。近曾。おおだら
見るよ。渠へ容華絶代の婦人と。ひにもわざと。贊ひよ言と巧にと。君
父と蕩ひゆのうじ。夫花と愛者ひた落しく再とも。風水と愛者
同落と知り。四時とつむ。男女之情も又然う。容と慕へ短く。父と慕

の長下限ある錢財とく限を委情よ失ひゆを愚かし。す公と將
ゆふど。遂に親類血族よ捨られ。路頭。參入せん者とうべ云禁物や
と尚異見。統公のがさう少へんとうを。吉三の言とすも果さど怒公既
より起佐吾七が誓と擅んで天地よ拵はけ。初の程ハ萬能のとく行。少々不快
とサレヒ。今ぞ知ぬ妹とをめく透く本ア。又ろもす我と謀る久のキ
ベ。モダム汝が佗のちくま。口の脣異見の統は假托己の妹と美麗。と
つらぬをうに昔が姿と。未ほと罵り條忠と義ととサセと。公底ハ妹
と餌とえつ己が才。宋利ととく横道者。まぐ我放蕩と歎多。
とくはと來よと諫じきと。いきで遲く一分、説わや。がれ少人と突放し。
をと睨み。佐吾七少し退き。こくはまきとときとくか。由期当うきよる
日。罪ヲトと言解は免と參入。と序時も忘れひよまねど。生平君が

傍に彼後八が附添居。直言も傍安よ妨らし。きくれりよぬへあじと諫大
花。佗もあこと。今日またハ黙止り。塵垢ハ鑑とくと。諫言へ人々惑を。
かくや公のクトくラ。をあ。原へとくと家れ。はよ養ひゆふ極大ゆ。彼
と退けり。と遂まへ齒牙よ害せし。あく。歎へとく更うと。を。を。を。
公と鷹。のひね。と涙とあくつ涙と共に諫じ。沈醉のう令し。吉三且
くやも。おれ既に勘当。け。私とえ。とサレヒ。ほか。他人よ對て。益
諫言。サレヒ。よかつり。我と醉と醒し。と油と松く去人と。佐吾七
忙く引苗。やう。難面。うとまく。又とサレヒ。を。もう。と。如何。
初より諫こう。うべき。辭。に暇。ゆ。ア。そ。と。公。ハ。君。れ。傍。よ。片。時。ひ。さ。ト。む。や。を。
ゆ。不。を。吉。三。勃。然。と。怒。と。生。ド。撲。地。と。空。に。く。蹴。返。セ。ば。吐。嗟。と。む。か。リ。打。撃。き。
して。ち。よ。る。萬。蒲。と。引。の。け。つ。起。も。あ。づ。く。ぬ。佐。吾。七。が。肩。尖。面。内。差。別。多く。



晴け声をとせど佐吉をまことせり。家を訪ひ竊の説言を
べきと夜も又聞てゆきとひあがく。大路より非とあぐるやの川語
へ色づぶ乃鏡と日暘を塵垢我原れ武士うせば汝と一刀両段とほば情を
もるけんのと今商人とありてあり。刃よ寸鎌を佩ふるを口惜と眼逆をり
ね氣のとくさんぐよ打撲ふく衣紋れりく懷中より撲的と落する浦乃袋
うちうきびく一品と佐吉七へす小取あき。桔燈の火燄ふるす。且考ま宣
怪と吉三が面と信度れんに。告吉三へえよ公ひつむをかわれ秋と眼
サムラと又ら鶴籠ひそめられ。ひが夫ゆきりゆきりと携る高蒲と突進
も。又もゆの佐吉七が鶴籠の簾にひとかけり。くらうへ且てく異見の説を
まくるにあらず別に向うへき更あれば。まづ少時はゆどつぶさんじゆいれ
を。佐吉七がまとねひつけた鶴籠くずれといきまさつ。西と望て急せき
とかくのど

このうきが稿と半脱して後耳食錄ともと小説と読へ。七賢乃名と通と
く。酒宴と設るとと哉。古三が地獄の体相ととぞとば略相似
よう。假書とくくい続向とくとてわかゝ。など和漢の人情ひうき
とかくのど

九 順 補

李本洪

全

本

洪

あらほと 小半刺入百玉銅
毛

第一顔のりう黄をみむくと足あびき原ふよ
息ざま下くも重みだく脇をもたきうきあるみよ
のこ刺めをもくわく寝るあく残このむよ
肩をもく背ももらすと足だるきよよ
懲身血のめぐりあり尻をくれうきくろよ
たらまう骨つ見えむり痛ミ腹ふかまつりあるよ
積み水をもくあみ刺めトクむ絲やけく不樂よ
腹すきあみ刺めトクむ絲やけく不樂よ
常に大便むりづくらう目まひ直ぐくらう
行と久くじめうね勞惱のとくあく煩ふふよ
男女小児あせきを生物どくの色あく病となく刺
がるをあく何病ひとも刺さうがうくがらま
此處を成角ひくらうが金陵するもくアノ人

凡病ひを患ふれば此能書きを以て之を治す
以て是よりはるかに良也と云ひて之をわざ
三年五月と種々の事の如きを以て亦妙某實業者には余もやうに
於て是よりはるかに良也とある治感りくらし
葉脱ひきの附れやまく深く人金城らむるの元氣
方の根ひひ難事なるが爲邊をみずか因ひ入使ゆべし
○右余考へ得の病根の心氣は元脾胃に勞損よりせるたる三年九月廿四日
治ひがて而體よりくわゆる一劑ありて二本龍田人傳來法也小半升剤七日
用ひ全快あきとうとひき此順浦九ノ第一じみをよく調和を多めに之を増む
をあらび血の多さをよし下部より陽氣順流するをもむる妙術あり

本家 西國横町二丁目 大阪屋半藏

京都賣引所
銷聲師通東洞院東入町大和屋彦右衛門
御府内まよひのうどん
御酒を町へ運び浦とちと取次ふあきと慶春
乃左家
のよし
かみゆく上山家
のやま

